

日本はんだ付け協会設立趣旨

電機・電子機器製造業は戦後日本の経済を発展させ、国民の生活向上に大きく貢献した、日本を代表する産業です。

それは産業の域に留まらず、「まじめ・勤勉・丁寧・こまやかな心配りができる」という日本人気質を体現したのものとして、日本人の誇りといえるほどのものともなっており、精神的な支柱ともなっている分野でもあります。

であるからこそ、社会や経済が大きく転換している現在において、あらためて

「ものづくりニッポン」ということが謳われており、また、次世代においても引き続き電機・電子機器製造業は日本の骨格を形成する産業であり続けるといわれています。

はんだ付けはその電機・電子機器製造業においてかかせない技術であり、はんだ付けの高い技術があったからこそ電機・電子機器製造業がかくも発展したと言っても過言ではありません。また一方、はんだ付けの歴史はとても古く、発祥は紀元前にまで遡ります。

はんだ付けは長い歴史を持ちつつ最先端の分野では代替不可の技術であり、今もなお進化を続けているという、非常に奥深いものでもあります。

このようにはんだ付けは重要かつ深旨なものでありながら、今もって脚光を浴びてはならず、称賛をもって受けいられることもありません。

むしろ、暗くネガティブなイメージが纏わりついています。

私たちはそういったイメージを払拭し、誇るべき技術としてはんだ付けが広く認知されることを願っています。

はんだ付けに対する認知を広めることが、直接携わる技術者のみならず、ものづくりに携わる全ての人々への理解と支援につながり、そして日本の基盤産業である製造業の振興へと発展していくものと信じています。

私たちの目的は、はんだ付けに対するイメージを変えつつ認知を広めること、また、技術者を育成することではんだ付け産業を下支えすること、そしてそれにより産業の振興を促すことをもって公益に資することです。

営利のためではなくその目的を達成するために、様々な職種、経験、知識を持つものがそれぞれのかかわり方で、かつ連携を密にとりながら活動できるよう、今般、当法人を立ち上げることと致しました。